

テキストの作成や受講生の名札作りに追われる開校準備委員会のメンバーたち



# 道医療大・障害者向けオープンカレッジ 学生奮闘“大学生”サポート

【当別】高等養護学校を卒業した知的障害のある人に、大学の授業を体験してもらう北海道医療大学の「オープンカレッジ」が、スタートして六年目。同大の学生でつくる「開校準備委員会」が運営するが、年々会員が減少し、今年はずか三人で奮闘中。三人は、活動に参加する仲間を募っている。

(川村史子)

## 湯瀬代表「準備委に参加を」

北海道医療大でオープンカレッジが始まったのは二〇〇二年九月。障害者福祉が専門で、知的障害者施設に長年勤務していた横井寿之教授が呼びかけ、学生を中心に運営してきた。

年四回、大学のキャンパスを使い、同大教授や外部講師による講義や実習が行われている。

受講生は高等養護学校を卒業した十八歳以上が対象で、十代から五十代まで幅広い。受講生には、サポートと呼ばれる世話係の学生ボランティアが付き添う。

薬学の授業では、薬草になる植物のスライドを見たり、同大の薬

草園に生えているハーブのお茶を味わったり。福祉の講義では、高齢者になると食物を飲み込む力が弱くなることを学び、サポートの力を借りて食事の介助などを体験する。

毎回、札幌近郊や苫小牧などから障害者四十人近くが参加し、定着してきたが、悩みは準備委スタッフの減少だ。今年はずか三人。

代表を務める看護福祉学部三年の湯瀬麻衣さん(三)は「受講生が使うテキストの漢字にふりがなを振ったり、世話係のサポートを求めたりと大変な仕事ですが、受講生が喜ぶ顔を見ると、本当にうれしい」と話し、「ぜひ活動に参加を」と呼びかけている。

今年と同大の学生を主体に運営するNPO法人「当別町青少年活動センター」ゆうゆう24」の協力を得て、六月と九月に夕張で芸術セミナーを開くことも計画している。

問い合わせは開校準備委員会 ☎0133・233・1263へ。